

かんきょうニュース

第48号 平成16年11月(隔月発行) 四日市市環境学習センター

〒510-0093 四日市市本町9-8本町プラザ4階 54-8430

四日市のセアカゴケグモのその後

四日市自然保護推進委員会委員 太田定浩

「人のうわさも75日」とか、あれほど騒がれたセアカゴケグモも、このごろではほとんど耳にしなくなりました。時たま「まだいるんですか」と聞かれることがありますが、「いることはいますが、ほとんどいません」と答えることにしています。

1995年9月、大阪府高石市で最初に発見された毒グモのセアカゴケグモが、四日市霞埠頭の「四日市国際物流センター」の工事現場で、11月27日に最初に捕獲されたのは、国際化時代を象徴するような出来事でした。29日の三重県健康福祉部と四日市保健所による、霞埠頭周辺での大掛かりな調査結果は衝撃的なものでした。次の日の新聞には「四日市の毒グモ計231匹 ふ頭一帯駆除作戦」「毒グモ騒動 自治体は躍起 専門家は冷静に」など、ご記憶の方も多かろうと思います。

セアカゴケグモはオーストラリア、ニュージーランドなどの熱帯・亜熱帯地方に分布し、日本ではこれまで八重山諸島での記録しかありませんでした。まして毒グモですから、駆除法は、噛まれたらどうするかなど、関係機関はその対策におおわらわでした。幸いにも被害の報告もほとんどなく、セアカゴケグモの脅威が薄れるとともに次第に忘れられた存在になっていきました。

そんな中で、日本蜘蛛学会では移入動物としてのセアカゴケグモが、今後どのように国内で分布を広げていくのか、野外での実態調査をする必要がでてきました。見つけたら殺す大阪では、同一地点で通年調査をすることはできにくいので、四日市でぜひ実施するようということになりました。調査地を設定したのは、今年7月19日の海の日に開園した富双緑地の一部でした。もともと側溝蓋の裏側などに不規則網をはるヒメグモ科のクモですから、国道23号線の東側に沿う幅11mの道路の側溝にある42枚のコンクリート製の蓋を対象にしました。詳細は省きますが、蓋の裏側や下の溝の草などに網を張るクモを、1996年4月から97年12月までの1年9ヶ月間、月に1回生息個体数や雌雄別、成熟段階と卵のう数などを記録しました。また、96年9月には個体識別のマーキングをして次の月に移動距離も調べました。これらの調査から、年間通じて成体、亜成体、幼体が見られ、それぞれのステージおよび卵のうの消長から、四日市での産卵期は夏から秋にかけてである。

冬季も各ステージがみられることから、低温、積雪にも耐えて、温暖化が進む今後も繁殖し続けるであろう。移動距離はそう大きくはない。ことなどがわかりました。

現状はといいますと、当初多数の個体が捕獲された霞ヶ浦緑地では、側溝蓋はすべて隙間の大きい金属製に変えられ、埠頭にある企業、工場では年に数回側溝など周辺の清掃をするようので、セアカゴケグモの生息場所は狭められて今ではごく限られた所でしか確認できません。したがって、新たな多数の個体の移入がない限り、四日市でのセアカゴケグモはこれからも減少傾向が続くであろうと考えています。